令和２年度使用小学校教科用図書選定委員会選定理由書

<table>
<tr><th>種目</th><th>国語</th><th>第１推薦：東書</th><th>第２推薦：光村</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった４社の図書は、どれも学習指導要領に示された各学年の目標及び内容を漏れなく配列してあり、基礎的・基本的な言語能力がしっかり習得できる内容・構成となっている。とりわけ、第１、第２推薦の図書については、他の図書と比べ、学習の手順・手立ての示し方等、主体的な学びを引き出す工夫が優れていた。また、伝統や文化についての内容、教科横断的な学習の充実に関する内容についても特色が見られた。そこで、全体的に見て、第１、第２推薦の図書を選択した。
第１推薦の図書は、同時期に同領域の学習を配置し、重点指導事項を原則１単元１領域に絞って配列している。また、学ぶ道筋（学習過程・手順・学習方法）を丁寧かつ明確に示し、児童の主体的な学びを引き出す工夫をしている。
今回、特に、説明的文章の内容を大きく変更し、「防災・安全」「平和と共生」「情報化社会」「科学技術の発展」といった内容を取り上げており、現代的課題に対応しているのが特長である。さらに、伝統的な言語文化を取り上げた小教材「季節の足音」や２年生以上の各巻にある様々な伝統・文化の紹介など、日本の美しさや豊かさに触れる工夫がある。全体的に、写真・挿絵・図表などが効果的に使われており、興味・関心を高めたり内容理解を深めたりするのに有効である。特に、１年生の入門時には写真や挿絵がシンプルで、活動も分かりやすく提示されている。言語活動の充実についても、記録・説明・報告・紹介・討論などの言語活動を系統的に位置付けてあり、教科横断的な学習がイメージしやすい内容となっている。
第２推薦の図書は、児童が主体的に学習を進めるために、見開き１ページに学習の進め方をまとめている。また、各学年に命や友だち、生き方をテーマにした内容の文学的文章を位置付けるとともに、３年生以上には平和に関する内容を系統的に取り入れており、児童の心を育むための内容が充実している。さらに、「漢字の広場」「季節の言葉」等、言語事項に関する教材が多く、各単元で付けたい基礎的な知識・技能が明記してあり、繰り返し基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がされている。
しかしながら、第１推薦の図書の方が、単元の配列が特長的である。また、第２推薦の図書は、学習理解を深めるための挿絵・図表等の提示の仕方に工夫が必要である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>種目</th><th>書写</th><th>第１推薦：日文</th><th>第２推薦：東書</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった５社の図書は、学習指導要領に示された指導事項をもれなく取り上げ、書写の基礎・基本を確実に習得できるような工夫がされている。また、言語活動の充実についても、書写で学んだ基礎・基本を他教科や生活の中で活用できるように、さまざまな活動を設定した教材が工夫されている。特に、第１、第２推薦の図書は、学習の進め方や学習の手立てとなる資料（写真・運筆）において優れており、第１、第２推薦の図書を選択した。
第１推薦の図書は、全学年で書く姿勢・用具の置き方や準備・用具の後始末の仕方を写真やイラストを用いて丁寧に説明している。また、正しい姿勢や運筆が擬態語や擬音語で強調しながら示してあるため分かりやすく、基礎・基本を定着させるための工夫がある。さらに、学習の進め方として四つの学習の流れやポイントが示されており、主体的な学びを引き出す工夫もみられる。特に、「ことばのまど」のコーナーでは、主体的な学びにつながるよう、自分で考えたり自己選択したりする内容が取り入れられている。さらに、毛筆教材数・硬筆教材数ともに多く、様々な内容に触れることができる。
第２推薦の図書は、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「ふり返って話そう」「生活に広げよう」という学習のパターンを示しており、学習の見通しがもちやすく構成されている。また、毛筆の学習を硬筆に生かすことができるよう教材の配置が工夫されている。伝統的な言語文化に関する学習においては、学年に応じた教材が取り上げられており、伝統的な言語文化に親しむことができるよう工夫されている。さらに、学習したことを他教科に生かすことができるような工夫がみられる。
しかしながら、第１推薦の図書の方が、毛筆教材・硬筆教材の豊富さに特長があり、主体的な学びを引き出しやすい点で優れている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>種目</th><th>社会</th><th>第１推薦：教出</th><th>第２推薦：東書</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった３社の図書は、学習指導要領の目標、内容を踏まえた問題解決的な学習の手法を取り入れ、教科書で学ぶ工夫がなされている。特に、基礎・基本の習得の手立て、資料提示・活用方法、言語活動の充実において、選択した第１、第２推薦の図書が優れている。
第１推薦の図書は、基礎的・基本的な内容が定着できるよう単元末にはキーワードを枠囲みで用語を明示し、「学びのてびき」として資料の読み取り方が定着できるよう繰り返し表示されている。見方・考え方を働かせる場面では、「この時間の問い」として課題を示し、吹き出しを通して思考の広がりや関連付けが示されるよう構成され、「次につなげよう」として次時への関連付けを行っている。また、写真や図表などの資料が効果的に掲載され、児童が活用しやすく、多くの資料に比較・関連付けて思考できるように工夫している。さらに、まとめの段階の手順が明確であり、児童の視点に立った多様なまとめが提示してあるなど、言語活動の参考になる。
第２推薦の図書は、基礎・基本の習得のための重要語句を示す「ことば」や学びの基本を示す「学び方コーナー」を提示し、基礎・基本の定着への手段が充実している。また、単元の進め方を「つかむ・調べる・まとめる・いかす」の繰り返しで構成し、連続性のある問題解決学習が進められるように工夫している。
しかしながら、第１推薦の図書の方が、掲載している資料の構成・配列や活用の視点に立った資料の表現・表記方法において優れている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>種目</th><th>地図</th><th>第１推薦：帝国</th><th>第２推薦：東書</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった２社の図書は、地図に対する興味・関心をもたせる工夫、社会科学習で取り扱う事物・事象を取り上げた地図の充実、児童にとって分かりやすい地図の表記、言語活動の充実を図る資料提示などの面から地図を活用することを促すように工夫している。
第１推薦の図書は、地図に関する基礎的な見方、地図帳の基本的な使い方のページが充実しており、構成や配列、表記などの工夫により、３年生からの地図活用を促すことができるようにしている。吹き出しや地図に関する問題形式で児童の視点に立った課題により、地図から見出せる大切なことを示すとともに、児童に示唆したり気付かせたりするなど興味・関心を高めながら進んで学習することができる。さらに、地図上で本市が明瞭に表示されており、地図全体もはっきりした色遣いや精選された記号、地名表記の適切な大きさ、太さにより、全体的に地図を読み取りやすくしている。
第２推薦の図書は、地図に関するイラストを多用し、基礎・基本事項を丁寧に親しみやすく示しており、地図を使った学習問題をキャラクターによる吹き出しの形式で各ページに掲載している。
しかしながら、第１推薦の図書の方が、３年生から活用するための工夫や社会科における様々な社会事象と地図を関連付けて学ぶ学習への使いやすさの点で、優れている。</td></tr>
</table>

種目	算数	第１推薦：東書	第２推薦：学図

選定理由

対象となった６社の図書は、学習指導要領の算数科の目標に基づいて内容が構成されている。また、「学び方を学ぶ」視点が重視され、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、児童にとっても教師にとっても授業をイメージしやすいように工夫がされている。また、学校での学びが児童の身近な生活場面に活用されたり、将来的な力に繋がったりしていくよう、「数学的な見方・考え方」を意識するようになっている。しかしながら、五つの観点を吟味していくと、第１、第２推薦の図書と比べ、個に応じた教材の充実や児童の思考の流れやつまずきにそった内容の配列や表現・表記が十分とは言えない図書もあった。そこで全体的にみて、第１、第２推薦の図書を選択した。

第１推薦の図書は、入門期における児童の発達段階を考慮し、２単元をＡ４別冊の中とじの形式で分冊にしている。このことで、１年生児童の中心的な操作活動であるブロック操作を容易にしている。また、ノート指導がまだ難しい時期において、書き込みの容易さを実現するとともに掲載されている練習問題が多い。また、全学年において児童がつまずきやすい学習に対して、習熟の程度に応じた問題を掲載し、デジタルコンテンツ等により丁寧に説明している。

また、学習のまとめやふりかえり場面において、「数学的な見方・考え方」をマークで示して顕在化し、児童が深くかつ系統的に学べるようにしている。

第２推薦の図書も児童のつまずきを考慮し、つまずきやすい単元を二つに分けて学び直しの機会を設定したり、特設単元として重点的に学習するようにしたりするなど、単元設定を工夫している。また、「主体的・対話的で深い学び」が１時間の学習の中で意識されやすいように表現・表記が工夫されている。

しかしながら、第１推薦の図書の方が、児童の発達段階を考慮し、習熟の程度に応じた教材を掲載している点で優れている。

<table>
<tr><th>種目</th><th>理科</th><th>第１推薦：教出</th><th>第２推薦：東書</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった５社の図書は、学習指導要領への対応が万全であり、教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着と指導内容の工夫、理科の問題解決の過程を学年に応じてつかみやすくする工夫、写真や図表などを児童に親しみやすい構成にする工夫がされている。また、「理科の見方・考え方」を働かせながら思考力・表現力を育成するよう対話や話合い場面を多く取り入れるなど言語活動の充実や算数科との関連など、理数教育の充実が考慮されている。そして、令和２年度から、必修のプログラミング教育についても理科の学びを更に深めることができるよう工夫されている。
特に第１、第２推薦の図書は、問題解決の場面で予想をもたせる場面が多いこと、写真や図、文字の大きさ及び、情報量が適切であること、よい手本となる児童のノート例が示してあること等の点で優れている。また、すべての単元で学習のつながりや区切りが視覚的にとらえやすいように工夫されており、比較や関係付けをして考えたり、実験したりできるよう表現や表記及び構成が工夫されている。更に、児童が実験や観察をしたとき、複数の結果が得られた場合や異なった結果が発生した場合などの処理の仕方や話合いの仕方が示されており、児童の学習法の習得の参考になるよう工夫されている。
特に第１推薦の図書の特長として、１点目に児童の気付きによる問題発見が仕組まれていること、２点目に実験や観察の問題に対する結論が明確であり、結論に基づく補足や説明、或いは、次の学習へのステップを枠外で説明してあるため、思考を整理しやすいこと、３点目に結果をもとに分析して考察する力や見通す力の育成が図られるような児童の対話場面が掲載されていることが挙げられる。以上のことから、他の図書より優位性が認められる。</td></tr>
</table>

種目	生活	第１推薦：日文	第２推薦：啓林館

選定理由

対象となった７社の図書は、具体的な活動や体験を通して学習指導要領に示された、三つの資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する工夫がされている。また、特別支援教育に配慮したユニバーサルデザインの色彩や書体等を取り入れている。しかしながら、第１、第２推薦の図書と比べ、他の図書は児童に親しみやすい挿絵や表記、学びのつながりの点においての工夫がやや不十分であった。そこで全体的にみて第１、第２推薦の図書を選択した。

第１推薦の図書は、育成すべき三つの柱に基づいた学習のめあてを明確に示し、教師には押さえるべきポイントや評価が、児童には何を学ぶのかが分かる工夫をしている。スタートカリキュラムでは、幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿に対応させ、児童が活動をイメージしやすい写真で構成され、基礎・基本の定着を図る工夫がされている。主体的に学習に取り組む工夫では、教科書の使い方の説明や課題解決型の学習展開、自主学習の参考になる資料掲載、児童に植物の成長過程が一覧できる「やまおり」加工のしかけ等、児童に主体的に学びを促す工夫が豊富にある。昔の遊びや自然を対象にした遊びでは、他社の約２倍の資料が掲載され、ものづくりの内容が充実している。また、単元の導入に児童にワクワク感を抱かせるダイナミックな写真を使用し、学習意欲を高めるなど内容の表現・表記が工夫されている。また、見開き２ページを使い比較しやすくなる工夫がされている。言語活動の充実では、巻末の「ちえとわざのたからばこ」で、具体例がイラストで豊富に示され、また板書を中心にした多様な表現方法や話合いの場が例示されており、児童が活動をイメージしやすい工夫がされている。

第２推薦の図書は、紙面右下に設定した「めくり言葉」で気付きが繰り返し深まる構成にし、気付きの質を高めたり、児童の「次はこうしたい」「もっとこうしたい」という思いや願い、活動の連続性・広がりをサポートしたりする工夫がされている。日本の伝統や文化の充実においては、季節の行事や歌を写真の他に動画を閲覧できるＱＲコードを付ける工夫がされている。言語活動の充実では、巻末資料の「がくしゅうずかん」で、相手を意識した伝え方を自己決定できるよう多様な資料を掲載している。

しかしながら、第１推薦の図書の方が、スタートカリキュラムの内容や学習内容の配列、豊富な資料、有効な挿絵等においてより優れている。

<table>
<tr><th>種目</th><th>音楽</th><th>第１推薦：教芸</th><th>第２推薦：教出</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった２社の図書は、音楽科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために指導内容の工夫がされている。また、表現と鑑賞の２領域を相互に関わらせながら、音楽活動の基礎的な能力を培うための学習方法や内容、構成についても、工夫されている。
第１推薦の図書は、系統性や発達段階に応じた題材のまとまりがあり、基礎的・基本的な内容が無理なく定着できるように工夫されている。また、題材の中には、発展的に学習できるような内容も掲載されている。さらに、感じたことや気付いたこと、楽器を選んだ理由等、根拠や気付きを記述する欄が設けてあることや、絵譜や挿絵を用いた説明などが充実しており、それらを活用することで、言語活動の充実が図られるよう工夫されている。
第２推薦の図書は、学びのプロセスを示していたり、楽器の奏法についても自由な発想で演奏が楽しめるアイディアを紹介していたりと、児童の主体的な学びを引き出す工夫がされている。また、折込を使ったワイドな紙面で写真を示したページがある等、児童の興味を引く資料提示の工夫がされている。
しかしながら、第１推薦の図書と比べてみると、題材構成において、各題材で関連教材の広がりが少なく、深く発展的に学ぶためには物足りない。</td></tr>
</table>

種目	図画工作	第１推薦：開隆堂	第２推薦：日文
選定理由	対象となった２社の図書は、発想を広げることのできる活動の写真を多く載せて、児童に「やってみたいな」という気持ちを育む工夫がされている。また、主体的・対話的で深い学びを実現するため学習のめあてを明確に示して見通しをもって活動に取り組んだり、めあてに照らして活動を振り返ったりすることができるよう、見開きの題材のページの中で工夫してある。 第１推薦の図書は、すべての学年において巻末に「造形の引き出し」を８ページ設け、表現に必要な用具の扱い方や技法、材料についてイラストや写真を使って説明している。題材のページにも作り方や用具の使い方の説明を図解で入れたり、制作の順序を写真で示したりしている。さらにＱＲコードを読み取ると使い方を動画で見ることができる等、ＩＣＴを活用して基礎的・基本的な内容を確認できるよう工夫されている。各題材ページには、配慮する内容を「安全」の囲みを設けて具体的に示し、安心して造形活動ができるようにしている。また、活動中の児童の写真に工夫や気付き、思考の内容を吹き出しで表し、発想・構想のヒントになるようにしている。さらに児童がコミュニケーションをとりながら作品を制作していく題材を取り入れ、友達の考えを聞いたり自分の考えを伝えたりしながらアイディアを出し合う様子を吹き出しで示し、思考、判断、表現を促す工夫をしている。吹き出しの背景を無地にするなど、カラーユニバーサルデザインの考え方を取り入れたり、短文で意味がとらえやすい表記にしたりするなど、誰にでも使いやすい表現・表記の工夫がされている。 第２推薦の図書は、全ての学年において巻末に「使ってみよう材料と用具」８ページを設け、表現に必要な用具の使い方や技法、材料について、イラストや写真で作業の流れに沿って説明している。題材のページにも、用具を使っている様子を写真で示したり、制作過程が分かるように写真を多く掲載したりしている。 また、ほぼ全ての題材で、制作している児童の写真に吹き出しを１題材につき五つ以上付けて、児童の思いや感じ方を示したり、付箋を模した枠に作品についての作者の意図を詳しく示したりして、作品の工夫に目を向けさせ発想が広がるようにしている。さらに、ほとんどの題材で、児童がコミュニケーションをとりながら造形活動を行う様子が写真と吹き出しにより示されており、対話的な学びを促している。 しかしながら、第１推薦の図書と比較すると、主体的・対話的で深い学びを実現させるために掲載している吹き出しやコメント等の数が多く、説明の文章が長くなっている。そのため、作品の写真がやや小さめで、コメントの文字も小さくなっている。		

<table>
<tr><th>種目</th><th>家庭</th><th>第１推薦：東書</th><th>第２推薦：開隆堂</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった２社の図書は、家庭科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る構成・表現・表記となっている。また、問題解決的な学習・体験的な学習を適切に取り入れ、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫ができるものとなっている。
第１推薦の図書は、どの題材もリード文で学習内容の概要を示し、問題解決的な学習の流れを３ステップで構成している。児童が主体的に学習の仕方を身に付けることができるように工夫している。また、児童が基本的な技能を身に付けるための挿し絵や実物大の写真資料などを豊富に示している。
第２推薦の図書は、生活の見方・考え方の四つの視点を大きく取り上げ、問いかけるような題材名、振り返り等で、児童の主体的な学びを引き出すよう工夫している。また、「ひと口メモ」を用いて家庭科の基礎的・基本的内容の理解を促すとともに、語彙力を高める記載がされている。
しかしながら、第１推薦の図書の方が、巻末で基礎的内容をまとめて掲載しており、基礎・基本の定着に有効である。また、全体的な色、文字の字体、留意事項の印、資料等が児童にとって分かりやすいものとなっている。</td></tr>
</table>

種目	保健	第１推薦：東書	第２推薦：光文
選定理由	対象となった５社の図書は、学習課題の示し方や学習の動機付け、導入や課題解決の過程、まとめ・振り返りの活動において、児童の主体的な学習を引き出し、言語活動の充実を図りながら基礎・基本を定着させるための工夫がされている。また、内容の構成・配列・分量、内容の表現・表記についても、学習指導要領の配列に合わせ、学習指導要領に示された配当時間数での指導が可能なように構成されている。また、他教科との関連についての記述がなされ、教科横断的な学習の充実のための工夫がされている。しかしながら、第１推薦の図書、第２推薦の図書と比べ、他の図書は、使いやすさ、親しみやすさ、資料の充実の観点から不十分であった。 第１推薦の図書は、課題意識をもたせるための写真やイラストを多用するとともに、自分の生活を振り返って書く活動を多く設けており、児童の主体的な学習を引き出しながら基礎・基本を定着させる工夫がされている。 また、各時間、キーワードを書き込む欄を１ページ設け、学習したことを生活に活かすための資料を各時間のまとめの欄に掲載している。 第２推薦の図書は、「広げよう深めよう」というコーナーで、現代的な課題を取り上げた資料を１０箇所掲載しており、児童の興味・関心を高め、主体的な学習を引き出すための工夫がされている。 第１推薦の図書と第２推薦の図書を比較すると、第１推薦の図書は、使いやすさ、親しみやすさ、資料の充実といった点で優れている。		

<table>
<tr><th>種目</th><th>英語</th><th>第１：東書</th><th>第２：光村</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった７社の図書は、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指して各単元冒頭に学習目標を提示したり、主体的な学びを引き出すために学習の中でイラストや地図・写真、音声や映像を活用したりできるようにするなどの工夫がされている。また、内容の構成についても、異国の情報に触れることで自国の伝統文化に目を向ける内容が取り上げられていたり、聞く・話す・読む・書くそれぞれの活動を組み合わせて「慣れる」から「活用する」へと発展していく内容で構成されたりするなど、内容構成や配列・分量などが工夫されている。
しかしながら、第１、第２推薦の図書と比べ、他の図書は、学習活動を進めるための必然性や教科横断的な内容設定などにやや物足りなさを残す結果となった。
第１推薦の図書は、各単元ともコミュニケーション活動をゴールに設定することで、学習の必然性と意欲を高め、さらに世界を広げていく単元構成になっている。
また、４線入単語リストやユニットごとの基本表現リスト、書き順付アルファベット表やミシン目付コミュニケーションカードなど、学習を補助する細かい配慮がなされている。
第２推薦の図書は、各単元が、基礎的な知識・技能の習得から思考力・判断力・表現力を養う言語活動につながる構成になっている。
しかしながら、第１推薦の図書の方が、基本表現リスト、書き順付アルファベット表など、小学生に対する細かい配慮がなされている点で優れている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>種目</th><th>道徳</th><th>第１推薦：東書</th><th>第２推薦：光村</th></tr>
<tr><td>選定理由</td><td colspan="3">対象となった８社の図書は、心に響く教材を取り上げ、問題解決的な学習や体験的な学習に対応した教材を掲載し、キャラクターやマーク、学習の手引きを示すなどの工夫だけでなく、現代的な課題を取り扱い、カリキュラム・マネジメントにつなげる構成になるよう工夫がされている。また、話合いを促す発問の例示や話合いのポイント、成長を振り返ることができる学びの記録のページや別冊を設けている。
しかしながら、第１推薦の図書、第２推薦の図書と比べ、他の図書は、発問が固定された別冊ワークシートにより自由度がなかったり、行間が狭かったり、問題意識のもたせ方が誘導的だったりするなど不十分な点が見られた。
第１推薦の図書は、いじめ問題や情報モラル等学年段階に応じて時代に合ったテーマを取り上げ、ユニット式の教材を取り扱いじっくり向き合えるような構成に工夫されている。また、児童の多様な考えを引き出す活動型教材や、コミュニケーション活動を通して人間関係の構築につなげる学習活動ページを全学年に掲載している。そして、冒頭に問題の焦点化を図る考えるポイント、話合いの手引きなどを示し、巻末付録に、折り込みを使った紙面で、多数の写真や資料を掲載し、他の教科の学習や実生活と関連した内容を取り上げている。さらに、評価にも生かせる振り返りページは、１時間の授業ごとに自己評価をしたり１年間を振り返ってまとめたりするだけでなく、ポートフォリオ評価に活用できる切り取り式シートを設けている。
第２推薦の図書は、カリキュラム・マネジメントの考え方が生かせるよう学校生活や児童の発達段階に合わせて三つのまとまりに教材配列が工夫されている。また、定番教材はブラッシュアップされ、多面的・多角的に考えるために教材に複数の観点を取り入れたり、具体例や場面を取り上げたり、ダイナミックな絵や写真を掲載したりしている。そして、対話を通して深い学びにつなげられるよう三つの切り口に沿って問いを例示し、特に考えてほしい問いには◎（二重丸）を付けている。さらに、簡単な感想や考えたことを毎時間記録でき、児童が自分の成長を自覚でき評価の材料としても活用できるよう学びの記録のページが掲載されている。
しかしながら、第１推薦の図書の方が、仕掛けやイラストなどが多用されており、主体的に学習に取り組む態度を育てる工夫がなされている。</td></tr>
</table>